

日本のなかの朝鮮
金達寿伝
目次



金達寿最初の著書
『後裔の街』一九四八年三月、朝鮮文芸社刊

第一章 誕生から〈解放〉まで

- 生い立ち 012
- 幼少期 019
- 〈他郷暮らし〉の始まり 021
- 大学と文学——二つの夢 027
- 大学生活 030
- 金史良との交友 034
- 新聞記者として 036

第二章 民族主義青年から共産主義者へ

- 喜びと後悔と 046
- 在日朝鮮人文学者組織の結成と活動 053
- 中野重治との縁 057
- 『民主朝鮮』の苦境 062

第三章 政治組織と文学運動

- 日本共産党入党 066
- 二つの旅行 069
- 「日本共産党の五〇年問題」と『文学芸術』 071
- 「五〇年問題」の中で 073
- 「玄海灘」とその広がり 078
- 志賀直哉との文学的闘争から「朴達の裁判」へ 081
- 窮乏の生活 084
- リアリズム研究会から現代文学研究会まで 091
- 在日朝鮮人運動の路線転換から韓徳銖—金炳植体制の確立、除名まで 096
- 『鷄林』と『朝陽』 100
- 金嬉老事件 105
- 〈解放〉後の兄妹の生活・母の死・離婚 107
- 金章明の結婚、孫の誕生、父子間の葛藤 110

第四章 文学から古代日朝関係史へ

- 古代日朝関係史への関心の芽生え 118
歴史への関心の深まり 120
『日本のなかの朝鮮文化』創刊と初期の活動 124
『日本の中の朝鮮文化』シリーズの始まり 133
古代史研究の動機と問題意識 138
古代史ブームの中で 143
司馬遼太郎との交友 151
『季刊三千里』創刊 154

第五章 訪韓とその余波

- 訪韓 166
『日本のなかの朝鮮文化』終刊 180
韓国に「日本の中の朝鮮文化」を紹介 182
八〇年代の『季刊三千里』 185
全斗煥大統領訪日と天皇の「お言葉」 189

第六章 晩年

- 『季刊三千里』終刊 191
『季刊青丘』 198
文学活動の終わり 202
『日本の中の朝鮮文化』完結と続編の連載 205
NHK番組「世界・わが心の旅——韓国・はるかなる故国」 208
死去から「金達寿文庫」開設まで 210
それぞれの最期 214

- あとがき 215
金達寿年譜 219
主要参考文献 233